

## 船舶事故等調査報告書

平成21年3月26日

運輸安全委員会(海事専門部会)議決

|              |   |  |
|--------------|---|--|
| 事故等番号        | 2008広第126号  |  |
| 事故等名         | 貨物船第三大栄丸貨物船第七福丸衝突   |  |
| 発生日月時刻       | 平成20年10月31日19時00分ごろ   |  |
| 発生場所         | 香川県坂出港東運河岸壁   |  |
| 事故等調査の経過     | 調査の概要:平成20年12月16日 広島・地方事故調査官が、海難報告書を精査し、<br>B船船長から電話聴取<br>原因関係者からの意見聴取:意見なし   |  |
| 事実情報         |   |  |
| 船種・船名・総トン数   | A 貨物船 第三大栄丸 498トン   |  |
| 船舶番号         | 135177  |  |
| 船舶所有者等       | 大同産業株式会社  |  |
| 船種・船名・総トン数   | B 貨物船 第七福丸 199トン  |  |
| 船舶番号(IMO 番号) | 133584  |  |
| 船舶所有者等       | 神崎汽船有限公司  |  |
| 乗組員等に関する情報   | A なし<br>B 船長 四級海技士(航海)  |  |
| 負傷者          | A なし<br>B なし  |  |
| 損傷           | A 船首部に5cm×5cm×1cmの凹損<br>B 船首ハンドレールに曲損   |  |
| 事故等の経過       | B船は、鋼材約630トンを積載し、船首2.7m、船尾3.5mの喫水をもって大分港を<br>発し、揚地である坂出港に入港し、待機後、シフト移動を始め、着岸操船中の平成20<br>年10月31日19時00分ごろ、同岸壁北側に既に着岸していたA船の船首部とB船の<br>船首部とが衝突した。<br>当時、天候は曇で、風力1の北西風が吹いていた。 |  |
| 分析           | 気象・海象の関与<br>乗組員等の関与<br>船体・機関等の関与<br>判明した事項の解析   | なし<br>あり<br>なし<br>B船が、着岸時にA船との距離及び行き足に対する配慮が十分でなかった可能性があると考えられる。 |
| 原因           | 本事故は、B船が着岸時に、A船との距離及び行き足に対する配慮が十分でなかった<br>ため、着岸していたA船に衝突したことにより発生した可能性があると考えられる。  |  |
| その他の事項       | なし  |  |